

## ① 情報提供の充実・障害理解・差別解消

問	設 問	傾 向	頁
13	情報提供を充実させるために必要なこと	「障害福祉のしおりの内容を充実させる」が児童で4割近く、成人で3割以上と最も多い。成人は「市や社会福祉協議会等の情報誌をより充実させる」が5ポイント減少。高齢は「文字を大きくし、広報をより読みやすくする」が3割程度で最も多いが、前回と比べて10ポイント減少。	48
14	障害者差別解消法を知っているか	「知らない」が児童・成人で6割近く、高齢者で7割近くと多いが、前回と比べ児童で11ポイント減少、成人で7ポイント減少、高齢者でも5ポイント減少。	51
15	差別を受けたり嫌な思いをしたことがあるか	「ない」と回答した人が、児童で3割近く、成人で4割以上、高齢者で6割以上と年代が上がる程多い。児童・成人の発達・知的で5割以上が差別を受けたり嫌な思いをした経験が「ある」と回答。	54
16	どの場所や場面で差別や嫌な思いをしたか	「学校」が児童で4割近く、「交通機関」が成人で3割程度、高齢者で3割以上と最も多い。	57
17	差別や偏見を持たず暮らすために必要なこと	「学校での福祉教育を充実する」が児童で7割、成人で5割近く、高齢者で3割以上と最も多い。「民生委員などを対象に出前講座を実施し、地域における理解を深める」は各年代で2割前後が選択	60

## ② 暮らしを支えるサービス

問	設 問	傾 向	頁
18	障害福祉サービスを利用したことがあるか	児童で利用したことが「ある」人が10ポイント増加して7割以上。成人で7ポイント減少して4割以上。高齢者では3割近くと他の年代に比べ少ない。	63
19	現在利用しているサービスの満足度 ※満足度は5段階評価	「医療型児童発達支援」の満足度平均が前回の3.8から4.4に上昇。「日常生活用具給付」の満足度平均は児童の3.1、成人の3.6に比べ、高齢者で3.9と高い。	66
20	今後利用したいサービス	児童で「計画相談支援・障害児相談支援」「短期入所」が8ポイント以上増加。児童の肢体で「計画相談支援・障害児相談支援」が他の障害に比べ多い。成人の視覚・知的・発達で「共同生活援助」が他の障害に比べ多い。高齢者の視覚で「同行援護」が他の障害に比べ多い。	71
21	将来どこで暮らしたいか	「自宅(家族や親族と同居)」が前回と比べ、児童で6ポイント以上、成人・高齢者で15ポイント以上減少。児童・成人の知的・発達で「グループホーム」が他の障害に比べ多い。	77
22	将来、親や親族と一緒に生活できなくなったときはどこで暮らしたいか	児童・高齢者で「施設」が3割以上と多く、成人で「一人暮らし」が4割以上と多い。成人の知的・発達で「グループホーム」が他の障害と比べ多い。	80
23	いつグループホームを利用したいか	いずれの年代でも「時期はわからないが、今と状況が変わった場合に入りたい」が6割程度と多い。「いまずぐに入りたい(1ヵ月以内)」または「できるだけ早く入りたい(半年以内)」が成人で1割程度、高齢者で1割未満。	83
24	ショートステイを利用したことがあるか	短期入所を利用したことが「ない」人が児童・高齢者で8割以上、成人で7割以上。成人の肢体・知的・発達で短期入所を利用したことが「ある」人が他の障害に比べ多い。	86
25	ショートステイの利用目的は何か	児童で「将来、ショートステイの利用を考え、体験しておくため」、成人で「家族と離れた生活を体験し、自立へ向けて慣れるため」、高齢者で「家族や支援者の病気や急用のため」が5割程度で最も多い。	89
26	外出する際の手段は何か	児童で「家族と出かける」が9割以上で最も多い。「一人で外出できる」が成人で6割以上、高齢者で5割以上と最も多い。高齢者の肢体で「ヘルパーや移動支援サービスの利用」が20ポイント以上減少。	92
27	外出するために必要だと思う支援は何か	児童で「周囲の理解」が8ポイント以上増加して5割以上。児童・成人の肢体、成人・高齢者の視覚で「施設や道路がバリアフリーであること」が他の障害に比べ多い。	95

## ③ 小学校入学前(乳幼児期)

問	設 問	傾 向	頁
28	お子さんのことで悩んでいる・困っていることは何か	前回と比べ大きな違いは無く、「発育・発達の遅れ」が8割近く、「就園・就学への不安」が7割近く。未認定児で「保護者の心身が疲れる」、「自分の時間が取れない」が25ポイント以上増加。	98
29	悩みや困っていることを相談したか	「相談した」と9割近くが回答。「相談していない」は1割未満。「相談していない」は肢体不自由・難病で2割と他の障害に比べやや多く、未認定が2割近く。	100
30	どこに相談したか	全体で前回と比べて「保健所」が8ポイント増加し、「家族・親族」が14ポイント減少。	101
31	相談に至ったきっかけは何か	全体で「父母が気付いた」が6割近くと最も多く、7ポイント増加。「医療機関で勧められた」が肢体で36ポイント、発達で11ポイント増加。	103
32	利用している相談先について評価していることは何か	「すぐに相談に応じてもらえる」が7割近くと最も多く、次に「専門的な支援をしてもらえる」が6割以上。発達で「専門的な支援をもらえる」「問題や不安を解決してくれる」が他と比べてやや多い。	104
33	利用している相談先について不満は何か	「特に不満はない」が4割以上で最も多いが前回から14ポイント減少。「面談や支援につながるまで時間がかかる」が8ポイント増加。知的・発達で「問題や不安の解決に至らない」が他よりやや多い。	105
34	今後充実してほしい支援やサービスは何か	「発達支援の専門職による療育」が6割以上と多く、前回と比べ12ポイント増加。発達で「発達支援の専門職による療育」が20ポイント、内部で「医療的ケアを必要とする子への支援」が46ポイント増加。	107

## ④ 小学校入学後(学齢期)

問	設 問	傾 向	頁
35	学校生活で困った・困っていることは何か	小学生で「長期休暇の時の支援」が3割近くと多い。前回と比べ「健康・医療のこと」が15ポイント減。中学生で「友達ができづらい」が2割5分程度だが、「長期休暇の時の支援」、「家族が苦労している」、「授業についていけない」、「土日・休日の支援」が2割以上で続く。	109
36	学齢期の子育てで不安なことは何か	「自立」が小中高の各年代で6割以上と高く、次に「就労」が5割以上と続く。	115
37	学齢期の子育てで希望する援助は何か	前回最も多かった就労を希望する選択肢について、今回から「福祉的就労」と「一般就労(就職)」に分けたところ、「福祉的就労」が前回と変わらず5割程度、「一般就労」が3割以上に。	121
38	学校卒業の進路希望は何か	「就職(福祉事業所含む)」が他に比べ多く、7割以上。その他の選択肢「進学」、「その他」、「わからない」は1割未満。内部障害・難病が「進学」を回答。	127
39	学校卒業後にどんな支援を希望するか	多い順に「将来に関する相談」、「余暇支援」でいずれも5割以上。「余暇支援」が知的で6割近く、発達で7割近くと、他の障害と比べ多い。	128

## ⑤ 就労・社会参加

問	設問	傾向	頁
40	収入源は何か	成人で「障害年金」「障害者手当」が9ポイント程度減少。高齢者で「老齢年金」が25ポイント減少。「障害年金」は成人の知的で8割程度、高齢者の精神で4割程度と他の障害に比べ多い。	130
41	現在、仕事に就いているか	成人で「就いている(一般就労)」が2ポイント程度増加し、「就いている(福祉的就労)」が5ポイント程度減少。「就いている(一般就労)」が成人の精神で14ポイント程度、成人の発達で6ポイント程度増加。	133
42	現在の仕事内容は何か	「事務」が成人で2割程度、高齢者で3割程度と多い。成人・高齢者とも肢体で「事務」が最も多い。成人の知的・発達で「清掃」「製造」「農業・園芸」が他の障害と比べ多い。	135
43	賃金・工賃は月平均いくらか	成人で「1万円未満」が8ポイント程度減少し、「20万円以上」が6ポイント程度増加。「1万円未満」が成人の知的で11ポイント程度、成人の発達で22ポイント以上減少。	137
44	就労が難しい、またはしていない理由は何か	成人で「病気や障害で働くことが難しい」が6割以上で最も多い。高齢者で「高齢で働くことが難しい」が6割以上で最も多く、次いで「病気や障害で働くことが難しい」が4割以上。	139
45	今後、働きたいと希望しているか	成人で「働きたい」が23ポイント程度減少。特に成人の知的で32ポイント程度減少。高齢者で「どちらでもない」が10ポイント以上増加して3割程度。	141
46	どこで働きたいと希望しているか	成人で「一般企業(一般枠)」が11ポイント程度、「一般企業(障害者枠)」が18ポイント程度減少。特に「一般企業(障害者枠)」は、精神で30ポイント程度、知的で22ポイント減少。	143
47	希望する仕事内容は何か	成人で前回最も多かった「事務」が11ポイント程度減少。「わからない」が2割以上で最も多かった。また、「特になし」が2割程度。	145
48	就職するために必要な支援は何か	成人で「障害特性に関する周囲の理解」が16ポイント程度減少し、特に知的で30ポイント程度減少。「能力にあった仕事」も8ポイント程度減少し、特に肢体で30ポイント程度減少。	147
49	長期的に働くために必要な支援は何か	成人で前回同様、「周囲の理解」「能力にあった仕事」「体調にあった勤務体制」の順に多い。成人の視覚で「通勤時の援助」が20ポイント程度増加し他の障害と比べ多い。	151
50	社会参加するとしたらどんな活動に参加を希望するか	成人で「障害者が活動している場所への参加(選択肢新設)」が2割。成人の発達・視覚で「趣味やサークル活動」が13ポイント程度増加。高齢者で「無回答」が4割近くで最も多い。	155
51	社会参加するに当たり必要なことは何か	「近くに活動の場があること」が成人で7ポイント増加し4割以上、高齢者で3割程度と最も多い。成人の発達で「障害への配慮があること」が6割以上と、他の障害と比べて多い。	158

## ⑥ 相談体制

問	設問	傾向	頁
52	主に相談したい内容は何か	「将来のこと」が児童で5割以上、成人で4割程度と多い。高齢者で「医療や健康のこと」が4割以上。成人の発達で「将来のこと」が6割以上と多い。児童で「将来のこと」に次いで「学校・教育」「福祉サービス」が4割程度と多い。	160
53	主にどこに(誰に)相談しているか	「家族」が児童で6割程度、成人で6割近くと高い。次いで、児童は「学校」で4割程度。	166
54	必要な時に気軽に相談するために必要なことは何か	成人・高齢者で「身近な場所に相談できるところがある」が5割以上、4割程度と最も多い。児童で「専門的な知識を持った職員がいる」が6割以上、特に肢体・知的・発達で7割程度から8割程度。	172

## ⑦ 健康・医療

問	設問	傾向	頁
55	医療を利用する上で困ったことは何か	「待ち時間が長い(選択肢新設)」が児童で5割近く、成人で3割以上、高齢者で4割近くと各年代で最も多い。	175
56	どのような医療的ケアを必要としているか	全年代で「服薬管理」が2割前後だが、児童の肢体(4割近く)と成人の肢体(3割近く)で多い。児童の肢体は以下「たんの吸引」「吸入・ネブライザー」が2割以上、「経管栄養」が2割近く、「気管切開」「パルスオキシメーター」「在宅酸素療法」が1割以上と続く。	181
57	重度化予防のために何かしていることやしたいことはあるか	「定期的に病院に通う」が児童で4割以上、成人で5割近く、高齢者で5割以上と最も多い。以下は年代毎に若干変動はあるが「食生活に気を付ける」「体操など簡単な運動をする」「散歩をする」が多い。	187
58	地域で自立した生活を続けていくために、どのような支援を希望するか	「困ったときの相談や対応支援」は各年代で最も多く、またいずれの障害でも多い。特に成人で4割程度と、2割程度が続く他の選択肢より特に多い。 成人の肢体・知的・発達で「日中に通える場所」が他の障害より多い。児童・成人の知的・発達で「自宅を離れて泊まりながら自立して生活できるように訓練する場所」が特に多い。	193
59	高齢化に伴い不安なことは何か	児童と成人は「面倒を見てくれる人がいない」が多く4割前後。「介護保険が適用されると利用しているサービスの内容や費用が不安」は成人において2割以上、高齢者では1割程度。	199

## ⑧ 安全・安心な生活環境

問	設問	傾向	頁
60	災害時に近所に助けを求められる人はいるか	「いる」が児童で6割程度、成人で5割以上でほぼ前回同様。高齢者は5割以上だが、前回と比べ8ポイント減少。	202
61	自分ひとりで避難できるか	「できない」が児童で8割程度、成人で4割程度、高齢者は4割以上。	204
62	助けを求められる人はだれか	「近所に住む家族(同居を含む)」が最も多く、成人・高齢者で5割近く。児童で「近所に住む家族(同居を含む)」が7ポイント増加する一方、「隣近所の人」が10ポイント減少。	206
63	K-NETに登録しているか	「登録していない」が児童で4割以上、成人で5割以上、高齢者で5割以上。児童は前回同様の傾向だが、成人で「登録していない」が4ポイント増加、高齢者で1ポイント増加。	208
64	災害に備えていることは何か	全年代で「水の備蓄」が最も多く、次いで「食料の備蓄」が続く。前回と比べ、児童で「かしわメール配信サービスの登録」が12ポイント減少。	212
65	災害が起きた時に支援してほしいことは何か	全年代で「水の提供」「食料の提供」が6割以上と多い。視覚・肢体不自由で「避難所のバリアフリー化」が、視覚・聴覚で「情報の提供」が他の障害と比べて多い。	218
66	バリアフリー化で力を入れてほしいこと何か	全年代で「道路の整備」が最も多い。次いで「公共機関の施設の整備」となっており、これらは特に視覚・肢体・高次脳で割合が多い。	222